

「ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course（第2回研修会）」開催要項

1. 趣 旨 若手・中堅教員等が、学校や地域の教育諸課題の解決に向けた実践と省察、課題研修やピア・サポート等を行うことにより、ミドル・スクールリーダーとしての資質能力の向上を図るとともに、教職実践課題の解決力、省察力の醸成を図る。
2. 主 催 独立行政法人教職員支援機構、 同 山口大学センター
山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻（教職大学院）
3. 共 催 山口県教育委員会
4. 開催日時 令和6年8月24日（土） 13：00～17：30
5. 開催場所 山口大学教育学部「21 番教室」（講義棟 2 階）
〒753-8513 山口市大字吉田 1677-1 Tel:083-933-5300
6. 参加者 教職経験（正規教員経験）3～20 年目頃の教員、教職大学院生、大学教員等
7. 研修内容
 - (1)開講行事 (13:00～13:05)
あいさつ 教職員支援機構山口大学センター センター長 和 泉 研 二
諸連絡 研修プログラム概要説明、諸連絡
 - (2)ちゃぶ台協議 (13:05～14:40)
テーマ 「私が出会った最高のリーダー ～リーダーに求められるもの～」
支援者 教職員支援機構山口大学センター、山口大学大学院教育学研究科教職員等
 - (3)講演（講義演習） (14:50～17:20)
テーマ 「リーダーとは ～これからの学校におけるリーダーシップ～」
講 師 岐阜聖徳学園大学教育学部 教授 玉 置 崇
(授業と学び研究所所長、一般社団法人未来を拓く学校づくり研究会代表理事)
 - (4)研修のまとめ (17:20～17:30)
あいさつ 山口大学大学院教育学研究科 研究科長 鷹 岡 亮
8. 「感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）」にもとづく取扱（お願い）
 - (1)本研修の実施においては、主催者として、「感染防止の5つの基本(厚生労働省 ADB,2023.3.8)」を参考として感染予防に努めるとともに、受講者一人一人に感染防止に向けた責任ある行動を要請する。
 - (2)研修地域や受講者居住地の感染状況や推移、研修関係者の意向等をふまえて、研修形態を「対面・参集型研修」から「オンライン研修」等に変更する場合がある。
9. その他
 - (1)本研修事業は、独立行政法人教職員支援機構地域センター（山口大学センター）事業経費により運営される。



ちやぶ台次世代ステップアップ研修講座 「学級通信」
 (ちやぶ台次世代コーホート Advanced Course)
No.1 2024.6.25
 (独) 教職員支援機構山口大学センター・山口大学教職大学院



「勉強になりました」「どう思う?って聞かれた」「こんなフラットで楽しい研修もあるんだ」 11年目のちやぶ台次世代コーホート Advanced Course スタート!

山口大学と山口県教育委員会が、教職キャリアを貫く職能開発 + 教職各ステージのリーダー養成 + 教職員研修の活性化を目指して始めたのが平成26年。皆さん、何歳でした? その時の自分を覚えていますか? 思わず笑ってしまいそうですが、今年も多数のご参加・登録ありがとうございます。



本年度登録者は、現職教職員47人、教職大学院学部卒院生13人、県教委と周南公立大と山口大の教職員26人の86人。

6月15日、現職教職員26人、教職大学院生10人、託児スタッフ2人、県教委・大学関係者22人が集まって第1回研修会を行いました。懐かしい顔、新顔も揃った研修会の概要を報告します。

開講行事 + アイスブレイク「自己紹介」

NITS 山口大学センターの和泉研二センター長の挨拶に続いて、全員で「リレー自己紹介(前の人の名前最後の読み仮名からコメントを始めて自己紹介します)」。

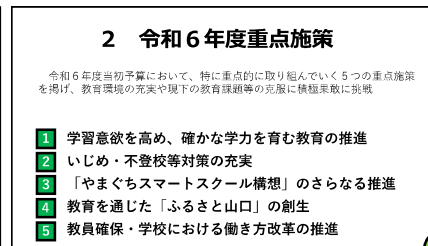
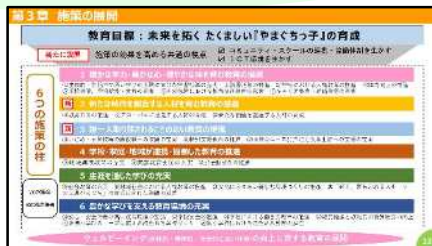
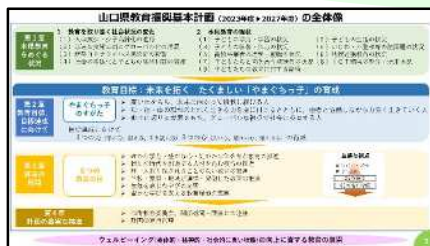


思っていた読み仮名(最後の文字)と違ったり、欠席だったりの「あらら」にも臨機応変、ユーモアたっぷりに対応する皆さん、ホントお上手!お見事!さすがでした!

講義 未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成に向けて

山口県教育庁教育政策課教育企画班 班長 今田隆之 さん

3年連続でご登壇頂いた今田班長さん。今回は山口県教育振興基本計画から本年度の重点施策について、特に学力向上、いじめ・不登校、スマートスクール、ふるさと山口の創生、教員確保と教職員の働き方改革を中心にご講義頂きました。山口県教育の今を見つめ、「学びの主人公」は誰かをど真ん中に、歴史、経験や数々のデータから分析し、明日の山口県教育を創るお仕事をなさっているだけに、ユーモアいっぱいの中にも迫力と説得力が。議会等ご多用のこの時期、今田班長さん、ありがとうございました。



受講者のコメントから

昨年度は受講できなかったのですが、一昨年度、ICTに関わるお話を聞かせて頂きました。まず、班長さんの仕事に対する丁寧さ、誠実さがお話を聞きながら伝わってきました。教育行政について、現場の教員はあまりに知らないことが多いと思いました。予算の獲得というヒリヒリするような、シビアなお仕事もされる中、一つひとつの計画を綿密に、実効性をチームで検討し、練り上げるという丁寧なお仕事をして下さる方がいるからこそ、日々の教育活動が実現できるのだと実感しました。それに引き換え、私たち現場は…。慌ただしく日々が過ぎていき、場当たりの指導になっていないか反省させられます。また、教育振興計画に子どもの声を聞いて反映させたり、子どもに直接広報したりと、行政が開かれている印象も強くなりました。教員だけでなく、子どもも保護者も今日のお話を聞いてほしい、そのような機会があればいいなあと思いました。(小学校)

公立中学校のモデル校において生成AI・学習アシスタントアプリを導入し、生徒の家庭学習における個に応じた学びを支援する施策は、不登校を含めた様々な教育の問題を見つめ直すきっかけにもなり得ると考えた。ま

た、教師が学びを強要するのではなく、子どもが学び方を選択し、それぞれの力を育てていく上でも大切な機会であると思った。働き方改革や情報・連絡共有に寄与するという話もあったが、新たな施策をもとに教師として何ができるか考えていきたい。教師として考えるということに実感が湧いてきた今だからこそ、山口県の教員不足、働き方の改革やいじめ・不登校の増加等について問い直し、自分に何ができるか、どのようなことで自身の力を活かすことができるか、みんなと一緒に探究していきたいと思った。(学部卒院生)



これまで教員として働く中で、行政や行政職については畑が違くと捉えていた。しかし、改めて講義を受け、行政の方々がどれほど社会情勢や背景、県や地域で起きている事象や課題等に対して、限られた予算の中で取り組まれているのかを知ると、教育の frontline に立

っている我々がその思いを受け止め、教育活動を行っていかねばならないと感じた。山口県や山口県教育の現状を理解するとともに、今後に込められた思いを受けることができた。(高校)

ちやぶ台ワーク 学力向上を切り口に研修仲間 (Cohort) のつながりをつくろう!

「研修びらき」は、このワークに続く中野先生のご講義テーマを念頭に、学力向上の現状考察と会員相互の人間関係づくりをミックスした校種別の「ちやぶ台ワーク (研究協議)」。事前に「ロジックツリー (問題を分解の木として原因や解決法を発見する際に活用できる課題解決フレームワークの一つ)」を事前探求課題 (宿題) としましたが、さすがに意識も意欲も高いアクティブな人たちの集まり。学力の捉え方から原因や対策の切り口、方向もみんな違いますが、その「違い」こそ「気づき → 新たな発見 → 自身の変容」の「源」と思える豊かなワークショップでした。当然、全員から届いたコメントの内容も極めてレベル高く。新たな学びでした。



受講者のコメントから

ワークでは、初めての交流にふさわしい「思考ツールによる意見交換」で、名刺代わりに自分の教育観を語る機会になりました。とりわけ、自校の学力分析では、自分の認識枠組みを語ることで、本質的な課題発見力を試す場になりました。グループの方々の意見から、多くの視点・視座を与えて頂き、自分の力量を批判的に考察する機会になりました。(小学校)

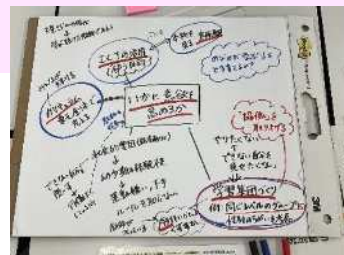


学力向上を図る上で最も大切なことは、「自分に必要な学力とはどのようなものか」を子どもが認識することだと協議中、協議後に学んだ。教師は「子どもたちには、知識が足りないから、~~~のような授業を行ってみよう」「対話することに課題があるから、学習形態を~~~のようにしてみよう」と子どものことを考えて、授業構想をしている。この想いがより効果的になるためにも、子ども自身が自己をどのように分析し、どのような力を身に付けたい、身に付けるべきだと考えているかを子どもと教師が把握することが大切だということである。(小学校)



スタマズ院生は、学力、成績についての問題点を挙げていたのに対し、現職の先生方は「学ぶ意欲の低さ」という学習におけるそもそもの問題点について挙げていて、その視点の違いが興味深かったです。そもそも「なぜ学ぶ必要があるのか」を児童生徒にわかってもらうこと、そのために授業やそれ以外の学校生活で児童生徒の成果を他者 (保護者や友達、地域住民) に見てもらい価値づけしてもらうことが有効だと学びました。話し合い自体とても難しかったのですが、学ぶこととはどういうことか現場で教えている先生方の意見も聞きながら根本を考えることができました。児童生徒の深い学びを促すにはその理解を教師がまず促す必要があることがわかりました。(学部卒院生)

ロジックツリーでは、中心問題は子どもの力で書かれているが、階層を掘り下げていくうちに教員の指導になっていった。グループ協議では、いかに意欲を高めていくかを課題として話し合った。学習集団づくりでは、序列をいかに崩すか、その序列を教師がつくってしまっていないかという話題になった。学びの土台と



なる人間関係づくりに目を向けることの大切さを改めて実感した。また、大学の先生から、「現在若手教員が増えていることから、やがて大量ミドルの時代がやってくる。」というお話があった。教諭であり続ける人が増える。



だからこそ学び続ける教師であることが大切である。(中学校)

協議の中で、「学習に向かう意欲がない学生について、そもそもなぜやる気が出ないのだろうか」、また「そのような学生の気持ちにどのように寄り添い、学習を後押ししていけるのだろうか」という問いがあがり、生徒に勉強の面白さを感じるきっかけをどう提供すべきか考える良い機会になった。協議の前半で、学生の勉強の目的が、「就活をゴールにおいた内申点向上のため」や「受験のため」になってしまっているという問題点が指摘された。また、勉強自体を嫌々やっている、自分で長時間考えることが苦手な学生が多い、という意見もあがった。その中である先生が、「そのような意欲が湧かない子どもは、なぜそうなったのだろうか、そのような学生の気持ちにどう寄り添うことができるだろうか。また、受験や就活に向かっていくことにすらやる気が起きない生徒には、何を教えてあげれば良いだろうか」という発言をされたことが非常に印象的だった。

私は教えるにあたり、自ら問いを立てて思考し、課題解決に向かっていくよう学習指導を行っている。しかし、自分で課題を見つけることが苦手な学生や、勉強への意欲が無い学生も散見される。これまではそのような学生に対し、「時間をかけて学習することを嫌がらず、もっと自分で考えてほしい」や、「将来的に絶対役に立つ知識なのに、なぜちゃんと自分のものにしようとならないのだろう」と批判的に考えてしまうことがあった。しかし、上記の問いを聞いて、勉強に興味がない学生や、一つの課題について時間をかけて取り組む気が起きない学生は、自分で課題を見つけ思考することや、自分で何かを探求して解決する面白さを学ぶ機会がなかったのかもしれない、と気づくことができた。



また、習ったことをそのまま受け入れるのではなく、不思議に思うことを深く調べたり、批判的に問いを立てたり、という作業には時間が必要である。覚えることが多く、受験や就活がゴールにある勉強生活では、勉強の中で感じた疑問や違和感の解決は後回しにする習慣がついているのかもしれない。受験や就活もしなければならぬ中で、思考したり、疑問を追求する時間の確保は可能なのだろうか、どのようにしたらいいのだろうかと考えさせられた。今後の授業では、知識を与えることに加え、「不思議」や「なぜ?」を見つける視点や発想方法、自分で見つけた課題に理論的にアプローチする方法などを伝えることにも重点を置いていきたい。(大学)



講義 山口県教育委員会による学力向上の取組 山口県教育庁義務教育課指導班 主査 中野大輔 さん

議論白熱の「ちゃぶ台ワーク」を受けて、豊富なデータを紹介しながら具体的に元気の出るお話をして下さった中野主査さん。学校が学校たり得る第1条件は、子どもたちに対する上質の教育を保障できることですが、学力向上の視点から目指すべきは「自分に必要な学びを自分でつくる力を育成すること」→「自立した学習者になるよう支援する」こと。限られた時間の中で演習も入れて頂き、質の高い、メリハリの効いた研修となりました。美作健悟班長さんもお参加下さいました。中野主査さん、ありがとうございました。

受講者のコメントから

学校の「学力向上」でも、教員の授業力向上でも、個人がやるのでは、その人やそのクラスの子もだけの取組になってしまう。それでは、学校全体ひいては県全体の向上には繋がらない。だからこそ、課題においていかに学校で組織的に充実させていくことができるかが大きな鍵となる。また協議において、人材育成や校内研修等の話題も多く出てきたことから、それぞれの取組に対し、組織的に働きかけるための「仕掛け」「仕組み」「習慣」を大切にするとよいことが、実感と協議、また講義を通して一貫して学べたように思う。組織的で建設的な取組の充実をめけていきたい。(小学校)

学力向上に関する研修は何度も受けてきたが、やはりその度に教員として資質・能力の向上に努める必要性を感じる。特に自分自身に反省した点は、生徒の誤答を自身の授業づくりに生かしていなかったことである。誤答をただの事実として受け止めただけで、そこから生徒が抱える課題を見出す



うとしてなかったことは大いに反省すべき点だと思った。大変勉強になる講義であった。(高校)

中野さんの講義では、学校の組織的取組についていつも以上に深く考えることができました。その中で私が考えたことは、児童生徒に対して手厚く支援すればするほど教師の負担は大きくなるということです。いじめや不登校問題、児童生徒の学力向上、授業力向上、学校・家庭・地域との連携というように教師が考えるべきことがあまりにも多すぎるなと思いました。児童生徒ファーストの考えはもちろんなのですが、あまりにも仕事量が多過ぎるというのが正直に思ったことでした。そこのバランスをどうするか、一人で抱え込まないように学校としての組織力が必要不可欠だと考えました。(学部卒院生)

テストで「これを出します」と言っているのに書かない。「これを出します」はきっと知識というか用語なのかな。でもそれって……。ある程度は必要だと思うが、でも……。と思う側面もある。とりあえずテストのために丸暗記して、テストで吐き出して、そして忘れるというあの学習の作法を助長していないかと思うのです。そして、本当に「学生が(生徒が)やる気がない」と言えるのか。

ちょうど期末考査の時期。この考査の時期が一番「学習観・指導観」が如実に反映された発言が同僚から聞こえてくる時期で、自分とのギャップに結構がっくりきたり、気分が沈む時期です。テストをどのような視点で作成するのか。そしてテストを採点した時に何を思うのか。学生のせいにするのか、教員自身の反省材料にするのか。

これからの学びや成長のために、生徒の学習観を変えることが大切で、それが何によって形成されているかを考えていくと結局教員や保護者といった周囲からの影響にいきつく。こんなに時代が変わり、学ぶツールが変わり、求められる資質能力も変わっているのに、20年30年前と同じやり方を生徒に求めるって違うなあと思う。その時代と同じやり方の授業、生徒の扱いでは、生徒は苦しいなあと思う。(高校)



コメント + 閉会挨拶

あっという間の4時間でした。教育庁教職員課の大津久美主査から研修プログラムの意義や今日の研修会での学び、教職員研修の活性化や人材育成についてコメントがあり、最後に山口大学大学院教育学研究科の鷹岡 亮研究科長の閉会挨拶にて終了しました。皆さん、ありがとうございました。



「ちゃぶ台」への温かいコメント、ありがとうございます。年齢・性別・経験・肩書・立場等乗り越え、他者への尊敬と感謝、協働の姿勢こそ「ちゃぶ台」です!

初めて参加しました。正直に勉強になりました。研修の内容もですが、それ以上に、同年代の先生、若手の先生や院生さんの発言、捉え方、見方や考え方から多くを学びました。以前から参加されている先生方や大学の先生方も、初めて参加する者を温かく、丁寧に迎え、話を聞いて下さる。「こうしたら良いよ」ではなく「あなたは どう思ってるの?」と一緒に考えようとして下さる。誰であれ、相手を尊重して協働しようとする姿勢、これが対等、協働なんだろうなあと思った。この空気感やお人柄にまた勉強になりました。ありがとうございました。(小学校)

ストマス院生の食欲さに刺激を受けて、自分たちももっと頑張らなければならないとの思いを強くした。明日からもっともっと食欲に学んでいきたい。ありがとうございました。(教委)

ちゃぶ台に初めて参加をして、こんなにフラットで楽しい研修があるんだなと素直に思いました。初めて出会う人ばかりでしたが、みなさんが話しやすい雰囲気をつくってくれて、気



軽に話をすることができました。そんなみなさんもそれぞれ自分の教育観をもっていらっしゃり、素敵だなと感じました。ありがとうございました。(学部卒院生)

つくづく、「大学に教員が集まる」ことの素晴らしさに感動しています。大学は一般に敷居の高いところであり、大学を卒業するとなかなか足を踏み入れるところではありませんが、こうやってフランクに集まれること、非常に素晴らしいことだと感じました。(大学)

託児サービスも提供しています! 託児スタッフさんに感謝です!

託児所、ありがとうございました。最初は「とと、離れないで」と言っていた娘でしたが、家に帰る頃には「おばあちゃん先生とお姉ちゃん先生とまた会いたい。」「次はいつ会えるの。」「今日はすごく楽しかったんだよ。」と笑顔で話していました。息子も、作って頂いた折紙を、ずっと抱いたままでした。佐々先生、3年生のお姉ちゃん先生には本当に頭が下がります。私だけでなく、子どもたちにとってもステキな時間になりました。(とと)



令和5年度実績と令和6年度計画

主催：山口大学(教育学部・大学院教育学研究科・NITS山口大学センター) 共催：山口県教育委員会・山口市教育委員会



コーホート (cohort)

同一の性質を有する同年齢集団 → 教職という立場や志でつながる同年代の仲間たち

ちゃぶ台次世代コーホートの基本

- ・学生、現職・大学教職員、教委関係者等による教員養成・教職研修プログラム
 - ・自主的・自発的な実践・研修意欲を尊重した各ステージリーダーの育成
 - ・週休日を中心とする年間10回の連続・積み上げ型研修の実施(6月～3月)
- 参加者が、それぞれの立場から、或いは立場を越えて協働し、理論的・科学的考察を行うとともに、実践と省察の往還、経験の共有をとおして自立した個として成長し続ける

2023年度の研修の実際

第1回 6月17日(土)午後 山口大学

「山口県教育の現状と課題 ～充実期教員への期待～」

山口県教育庁教育政策課教育企画班 班長 今田隆之

「困難や危機を乗り越えた学校がやったこと ～春日中学校のその時～」

追手門学院大学(前 奈良市立春日中学校 校長) 坂本静泰

第2回 8月26日(土)午前 セントコア山口

「この国の価値を次世代につなぐ ～起業家精神をもって生きること～」

株式会社「aeru(和える)」 代表取締役社長 矢島里佳

第3回 10月14日(土)午前 セントコア山口

「フィンランドから眺めた令和の日本型学校教育」

信州大学学術研究院・教育学系 教授 伏木久始

第4回 10月14日(土)午後 セントコア山口

「教職経験、教職への思いから、教職のやりがい、面白さや魅力を語ろう」

ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 会員(現職教員)

「教職の仲間たちを増やすために～教職志望者の拡大をめざす大作戦～」

山口大学教育学部・教育学研究科(教職大学院) スタッフ

2023年度の研修の実際

第5回 11月 3日(祝)午前 周南市徳山動物園(フィールドワーク)

「動物たちの生態と人との距離」

周南市徳山動物園 園長補佐(獣医師) 木原一郎、飼育員

第6回 11月 3日(祝)午後 周南市立徳山駅前図書館

「周南市の教育について」

周南市教育委員会 教育部次長・教育政策課長 十楽さゆり

「アスリートとして生きること～不可能とは可能性のこと～」

日立ソリューションズ「チーム AURORA」スキー部 新田佳浩

(「平昌パラリンピック」金メダル、2023年「ワールドカップ」銅メダル)

第7回 12月23日(土)午前 セントコア山口

「子どもの成長、自立と保護者の願い、教職員の想い(保護者との座談会)」

山口県PTA連合会役員(10人)

第8回 12月23日(土)午後 セントコア山口

「社会の変化とこれから学校教育～主体性と当事者意識～」

横浜創英中・高等学校 校長 工藤勇一

2023年度の研修の実際

第9回 2月10日(土)午後 山口大学

「会員による実践・研究成果発表・交流会」

やまぐち総合教育支援センター長期研修教員

ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 会員(現職教員)

特設 3月16日(土)午前 山口大学

「1年間の研修を振り返って(省察)」

第10回 3月16日(土)午後 山口大学

「インクルーシブ教育システムの構築」

新潟大学大学院教育学研究科

教授 長澤正樹

Everywhere you want to be! 2023

[NITS カフェ]・「ちゃぶ台」合同研修会「学級通信」
[NITS カフェ]・「ちゃぶ台」次世代コーホート連合事務局
2024.1.10
NITS 山口大学センター・教育学部・教育学研究科

「子どもたちの学び、育ち」、「この国の先と学校の姿」をど真ん中に置いて、
学校と家庭のつながりや学校教育のあり方を考えた「NITS カフェ」でした!

12月、山口市はクリスマス市になる...! まちがととても綺麗な12月23日。前日に終業式を済ませたばかりの先生たち、冬季休業目前の学生たちが集まって、本年度2回目の「NITS カフェ(保護者と創造する学校の未来づくりセミナー)」を開催しました。終日の研修行事にもかかわらず、茨城・大阪・広島・山口・福岡からの参加者は74人。現職教員32人(小15、中10、高5、特支2)、学生16人、教委担当者3人、大学関係者13人に県PTA連合会の皆さん(9人)とオンライン登場の工藤勇一先生。寒い日でしたが、ホットでエネルギーあふれるCafe! 充実した学びの概要を報告しましょう。

カフェ(ちゃぶ台WS)「子どもの成長、自立と保護者の願い、教職員の想い」
指導助言者(いつも元気な保護者を代表して) 山口県PTA連合会の皆さん

山口大学大学院教育学研究科の廣岡 亮 研究科長さんの開会挨拶に続いて、早速「カフェ」です。年齢、地域、職種、校種や立場等の異なる人たちが、心地よい空気感の中で語り合えるのがCafeの魅力。保護者の皆さんの元気、勢い、やる気も加わって「勢いと未来志向のCafe」って感じでした。ご参加下さった保護者代表の皆さん(学校・市・県PTA役員経験者)は、佐伯弘明・佐々木智美・辻本千夏・友里里絵・西川仁了・松田龍信・松永英治・松原真奈美・溝口憲治さんでした。年末にもか

多様な人材(みんなが健常者である、みんなが特性をもっている)が、互いを尊重し、一人の人間同士として関係を構築し、一緒に生活していく社会が実現できるよう、子どもたちや保護者、地域とともに、学校での取組が進んでいくよう、頑張りたいと思います。(中略)

― 会場に集ってくださった中野先生の皆さん(一部)と新田さんで記念撮影(左端、メダルも一緒に)! 新田さん、カッコいいです!

「巡回型講座」や今回から始めた「託児サービス」についても意見を頂きました!

昨年度は「下松市」と「宇部市(オンライン)」で、本年度は「周南市」で開催しました。地元教育委員会の方々には共催・会場確保・運営協力等で大変お世話になりました。また、今回から「託児サービス」を始めました。「学び続ける教員」の育成、キャリアの形成支援や子育て支援、働き方改革に関する課題と捉え、県(こども・子育て応援局)と相談しながら実施しました。当日は、佐々木先生、周南市の行村弘子さん、幼児教育コース4年の井手元佳奈さん、水村佳奈さんという保健師・看護師・保育士揃いの「贅沢な布陣」(笑) 大変お世話になりました。4人の託児者の皆さん、ありがとうございました。

受講者のコメントから

山口県について知ること、県内の様々な地域素材について理解を深めることを目的とした地域関係は、とても面白い企画だと思います。自分ではなかなか行こうとしない所に行く機会を貰えることは貴重です。また、今回のように関係市町の教育について、行政の方からお話聞けるのが有意義です。「うちの市ではどうなってるんだろう?」、所属市町の教育行政について関心を持つきっかけになります。ぜひ今後も取り入れていただきたいです。(小学校)

フィールドワークを織り交ぜた終日開催で、日頃の研修では学ぶことのできない内容で、地域を知ることのできる機会になりました。公共交通機関移動ができる場所であったため、駅周辺や昼食を含めた散策ができるなど、移動を含めて学ぶ機会の確保につながっていました。県全城を数年単位で周っていくことで、勤務地以外の土地を知るチャンスになると、学部生だけでなく現職教員も学びを深めることができると感じました。(小学校)

託児所開設は、今後の研修体制、キャリアアップの観点から大きな一歩となる体制づくりと感じました。体制を整える、環境を整える、人材を確保する等、様々なハードルを越えて実現できたことが、様々な立場の方のキャリアの支えになると確信しています。実際に利用された先生は、大変ありがたいサポートであったと思います。学部生の実地研修の一面も兼ね備えていたので、プラスの面が多かったです。運営側の負担感は想像してはいますが、とても感謝する体制づくりでした。(小学校)

山口県外の関係は、他の市に目を向けるきっかけにもなり、非常に刺激のある研修でした。また、託児所などの配慮もあり、子育てをされながら研修会に参加されているお母さんの姿を見て、私自身も頑張ろうと思いました。大変お世話になりました。(総合支援学校)

教員対象の研修会で「託児サービス」は初耳だったのですが、よく考えると、民間企業の女性社員対象(女性社員に限定することは別の意味で考えものと思うのですが)や、若い世代の参加が多資格取得の講習会、子

2024年度の研修計画

- 第1回 令和6年 6月15日(土) 13:00~17:00 山口大学
「山口県教育の現状と課題 ~本年度の重点施策~」
山口県教育庁教育政策課教育企画班 班長 今田隆之
「山口県教育委員会による学力向上の取組」
山口県教育庁義務教育課指導班 主査 中野大輔
- 第2回 令和6年 8月24日(土) 13:00~17:00 山口大学
「リーダーとは~これからの学校におけるミドルリーダーシップ~」
岐阜聖徳学園大学 教授 玉置 崇
- 第3回 令和6年 10月12日(土) 9:30~12:00 山口大学
「山口への感謝、貢献と企業文化、組織風土の醸成」
あさひ製菓株式会社 代表取締役社長 坪野恒幸
- 第4回 令和6年 10月12日(土) 13:00~17:00 Basic 第1回 山口大学
「マンガをとおして伝えたいこと ~ボクらはサブカルチャーで育った~」
漫画家(周南公立大学経済学部 特任教授) なかはら かせ

2024年度の研修計画

- 第5回 令和6年 11月 9日(土) 13:00~17:00 Basic 第2回
長門市「山口県油谷青少年自然の家」(NITSカフェ①) (宿泊研修)
「地域防災力の向上に向けて ~東日本大震災の経験から~」
岩手県立図書館 館長 森本晋也(前 文部科学省安全教育調査官)
- 第6回 令和6年 11月10日(日) 9:00~12:00 Basic 第3回
長門市「青海島共和国」(NITSカフェ①)
「青海島はマグマの博物館 ~防災・安全意識を高めるためにも~」
青海島共和国 国王 濱野達男
山口大学(理学部) 名誉教授 今岡照喜
- 第7回 令和6年 12月21日(土) 9:30~12:00 Basic 第4回
山口市「セントコア山口」(NITSカフェ②)
「子どもたちを真ん中において(保護者との座談会)」
山口県PTA連合会 役員
- 第8回 令和6年 12月21日(土) 13:00~17:00 Basic 第5回
山口市「セントコア山口」(NITSカフェ③)
「不登校対策のありよう ~多様な子への理解を現場から~」
広島大学大学院人間社会科学研究科 教授 栗原慎二
山口市立大内中学校 教頭 中川真治
萩市立川上小学校 校長 山本豊三

第9回 令和7年 2月 8日 (土) 13:00~17:00 Basic 第6回

山口大学

「外国人の目から見た日本 ~この国の価値と課題~」

京都先端科学大学 (KUAS) 国際センター アラン・チャンブリス

「留学生対応の実際から ~多様な人間集団を束ねる時に~」

京都先端科学大学 (KUAS) 総務部 兼子奈生子

「会員による実践・研究成果発表・交流会」

やまぐち総合教育支援センター長期研修教員

ちゃぶ台次世代コーホート会員

特設 令和7年 3月15日 (土) 9:30~12:00 山口大学

「1年間の研修を振り返って(省察)」

第10回 令和7年 3月15日 (土) 13:00~17:00 Basic 第7回 山口大学

「教科と探究をどうつなぐか ~対話型論証を中心に~」

京都大学大学院教育学研究科 教授 松下佳代